



日本シイエムケイ株式会社
(証券コード: 6958)

2015年3月期 第2四半期累計期間 決算説明資料

2014年11月 7日
日本シイエムケイ株式会社

■ 2015年3月期第2四半期累計期間 実績

- 1. まとめ … 4
- 2. 連結業績 … 5
- 3. 用途別売上高 … 6
- 4. 基板種類別売上高 … 7
- 5. 地域別業績 … 8
- 6. 設備投資 … 9

■ 国内連結子会社の吸収合併

- 1. 吸収合併の概要 … 11
- 2. 吸収合併による効果 … 12

■ 2015年3月期 通期見通し

- 2015年3月期 通期見通し … 14

2015年3月期 第2四半期累計期間 実績

■ 総括

- 自動車向けを中心として、海外での販売が好調に推移し、前年同期比で増収及び黒字化を達成

■ 売上高

- 自動車向けの売上は、国内において消費税増税の影響が見られたものの、海外での販売が伸長し、全体としては堅調に推移
- 自動車向け以外では、スマートフォンを始めとする通信機器や、アミューズメント、試作品などの売上が回復

■ 営業利益

- 販売が好調な海外において収益改善が進み、前年同期比で大幅改善

2. 連結業績



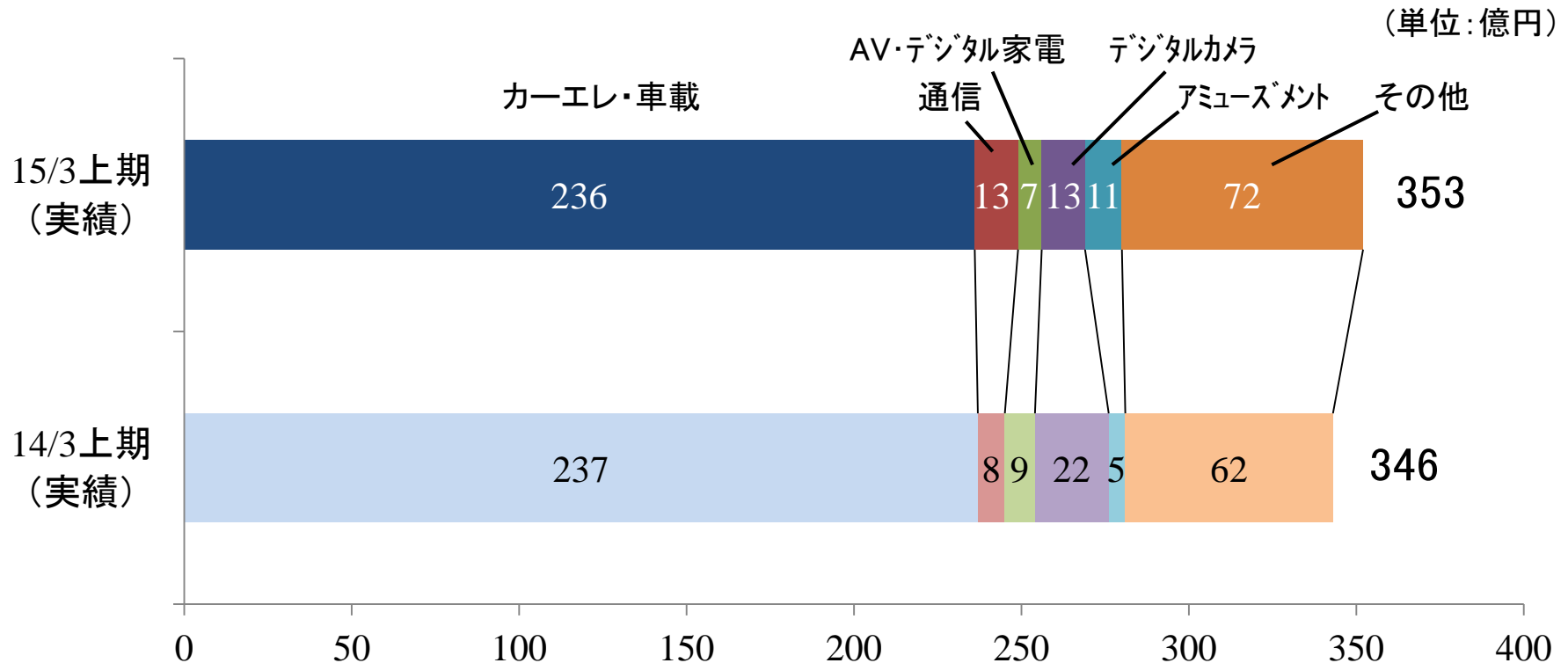
(単位:百万円)

	14/3上期 (実績)	15/3上期 (実績)	前年比	増減率
売上高	34,658	35,396	+738	+2.1%
営業利益	▲ 830	178	+1,008	—
経常利益	▲ 1,072	409	+1,481	—
当期純利益	▲ 1,107	71	+1,178	—

※ 数値は切捨てにて表示。

%は小数第二位を四捨五入にて表示。

3. 用途別売上高



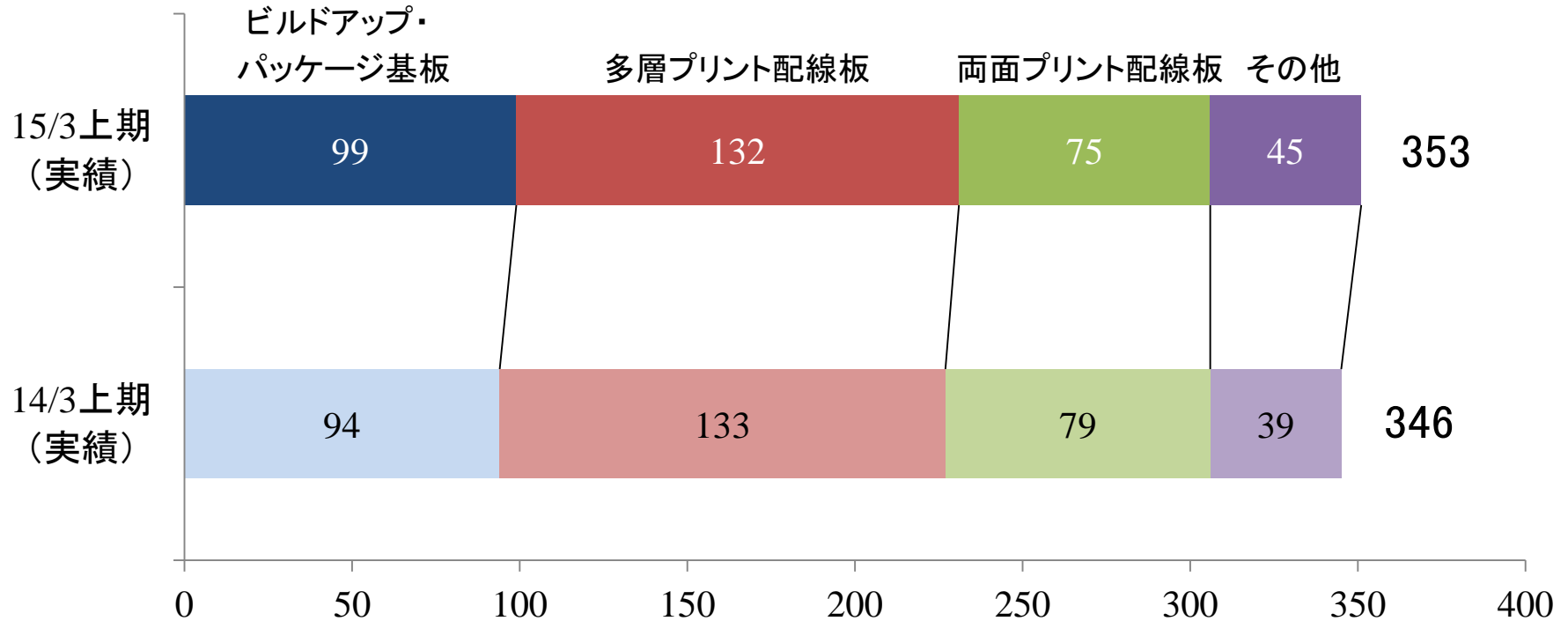
- 海外を中心として自動車向けの需要は堅調に推移
- 前期にAnyLayer基板の量産ラインを立ち上げた中国・無錫工場において、スマートフォン向けの受注が好調に推移し、通信機器向けの販売が回復
- アムusement、その他試作品についても販売が回復

※ 数値は切捨てにて表示。

4. 基板種類別売上高



(単位: 億円)



- 通信機器、アミューズメント向けの販売回復により、高付加価値品であるビルドアップ基板の販売が回復
⇒ プロダクト・ミックスの改善により収益改善に寄与

※ 数値は切捨てにて表示。

5. 地域別業績



(単位: 億円)

	14/3上期(実績)		15/3上期(実績)		前年比	
	売上	営業利益	売上	営業利益	売上	営業利益
日本	231	3	234	1	+3	-2
中国	94	▲ 2	102	3	+8	+5
東南アジア	59	▲ 7	67	▲ 1	+8	+6
欧米	19	0	23	0	+4	0
計	405	▲ 5	427	3	+22	+8
消去又は全社	▲ 58	▲ 2	▲ 73	▲ 2	-15	0
連結	346	▲ 8	353	1	+7	+9

- 堅調な海外自動車需要、中国・無錫工場でのスマートフォン向け基板の受注拡大などにより、中国・東南アジア地区の利益が大幅改善

※ 数値は切捨てにて表示。

6. 設備投資



(単位:億円)

	14/3上期 (実績)	15/3上期 (実績)	前年比	主な投資内容
国内	6	9	+3	品質改善及び生産性向上
海外	4	12	+8	タイ工場の生産能力増強
連結	10	22	+12	—
減価償却費	22	22	0	—

※ 数値は切捨てにて表示。

国内連結子会社の吸収合併

1. 吸収合併の概要



■ 概要

- 2014年10月1日をもって国内連結子会社4社を親会社である日本シイエムケイ(株)に吸収合併（2014年8月8日発表）

■ 目的

- 顧客における海外生産シフトおよび低コスト志向への対応
- 吸収合併により経営体制の見直しを行い、収益性の向上を図る

■ 吸収合併消滅会社

	日本シイエムケイ マルチ(株)	シイエムケイ 蒲原電子(株)	(株)山梨三光	シイエムケイ メカニクス(株)
所在地	新潟県北蒲原郡	新潟県五泉市	山梨県韮崎市	埼玉県秩父市
事業内容	プリント配線板の製造および販売			金型の製造 および販売
設立年月日	1994年4月8日	1989年5月12日	1992年11月30日	1980年8月1日
資本金	300百万円	240百万円	50百万円	200百万円
14/3期売上	9,663百万円	13,206百万円	1,889百万円	729百万円

2. 吸収合併による効果



■ 経営体制

- 組織運営/意思決定の一元化による経営のスピードアップ

■ 人的・物的リソース面

- 間接業務の集約による効率化
- 海外サポートの強化等、人材活用の活発化
- 機械設備等、グループ内リソースの有効活用

■ 製造コスト面

- 工場間の相互補完生産による製造コスト削減
- 資材の一括調達や外注費の一元管理によるコスト削減
- 運搬コスト等、内部取引コストの削減
- 品質管理の向上による不良損金削減

2015年3月期 通期見通し

■ 通期見通しについて

上期の業績結果を踏まえ、今後の事業環境を慎重に見極める必要があり、現時点においては、2014年5月12日に公表した予想を据置

(単位:百万円)

	14/3期 (実績)	15/3期 見通し	前年比	増減率
売上高	71,031	75,000	+3,969	+5.6%
営業利益	▲ 1,109	1,500	+2,609	—
経常利益	▲ 1,843	1,000	+2,843	—
当期純利益	▲ 4,955	600	+5,555	—

※ 数値は切捨てにて表示。

%は小数第二位を四捨五入にて表示。

本資料における将来情報は、2014年11月時点での見通しであり、その実現を保証するものではありません。

END